

*水晶……地球の中心部の殻に含まれる二酸化ケイ素がマグマの熱で溶かされて、固まったのが石英。そのなかでも透明度が高く、無色のものを水晶と呼ぶ。
*市川清美さんが収集した「佐久穂町の水晶と鉱物展」が、茂来館一般ギャラリーで開催されます（6/1～6/14まで）。



発掘! さわめびと

佐久穂町の山で水晶を採集し、自宅横のミニ博物館に膨大なコレクションを展示。



かわきよみ
市川清美さん

1950年佐久穂町生まれ。キウ農家。地元のカメラ部品メーカーに定年まで勤務。5年前、佐々木定男前町長からの依頼で、佐久穂町の鉱物の採集を始めるが、水晶が多く産出したため、水晶をおもに集め始める。キノコ、山菜にも精通。「やらないのは鉄砲だけ」。マツタケでは町内ナンバーワンの評があり、「マツタケ? 子供が匂いをかくのもイヤだって言ってるよ(笑)」。元佐久町消防団長。交通安全協会理事、家族は奥さんと2人。

「佐久穂の水晶は、冷えて固まるときの温度が高かったんですね。だから、ズバ抜けて色がいい。どうです、キラキラ光ってるでしょう?」
佐久穂の水晶は銀座に持つていけば、ダイヤモンドと同じ価値があります

「佐」
久穂の水晶は、日本でナンバーワンなんですよ

と、力を込めて話す市川清美さん。「ほら、これ見てくださいよ、きれいでしょ?」と次から次と水晶を差し出す。透明なもの、うすく色がついたもの、水晶の中に水晶が入っているものなど、鉱物に門外漢な人間でもその美しさについて引き込まれてしまう。そして、こちらの質問に途中まで答えたかと思うと、「あ、そうそう、あれ見てくださいよ」と別の水晶の話題に移り、興奮してしゃべりまくる。まるで、夏休みに捕まえた珍しい昆虫を自慢する少年のようだ。

今や水晶の大コレクターとなった市川さんだが、最初から水晶を集めていたわけではない。市話は五年前にさかのぼる。市川さんは、佐々木定男前町長から佐久穂町には珍しい鉱物が多く眠っているということ、このまま何もしなければ、せつかくの町の財産が散逸してしまうという話を聞かされる。そして前町長は言った。「市川くん、町の活性化のために佐久穂町の鉱物の管理をしてくれ」。市川さんが昔から古谷石などに興味を持っていたことを知っていた前町長からの直々の依頼だった。さらに前町長は市川さんにこう言う。「〈穴〉を探せ」

「穴」というのは、かつての金や銅、鉄の採掘跡のことだ。実はあまり知られていないが、佐久穂町は鉱物資源に恵まれ、かつては金や銅、鉄鉱石の採掘が盛んに行われていた。「山梨から川上村、両相木、佐久穂に至る道は金の道でもあったんですよ。武田信玄が信州を攻めた理由は実は信州の金が欲しかったからなんです。そして信玄は金を求めて群馬、最後は佐渡にまで行くんです」

その〈穴〉を探すと、珍しい水晶が次々に出てきた。「金が欲しかった信玄は水晶をとらなかつた。だから、水晶は残っていた。つまり、金の道は水晶の道でもあったんです」
こうして市川さんは水晶の採集にのめり込んでいくが、「佐久穂の水晶はとりわけ美しい」と力説する。

「佐久穂の水晶は、冷えて固まったときの温度が高かつたんですね。だから、ズバ抜けて色がいい。どうです、キラキラ光ってるでしょう?」
佐久穂の水晶は銀座に持つていけば、ダイヤモンドと同じ価値があります



ミニ博物館「石の館 道草」に展示された膨大なコレクション。[5年間でこれだけの水晶が出てきた。いかにこの町に水晶があるかということです]

取材・文/中村仁(ライター)、八千穂高原在住